

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470204109		
法人名	社会福祉法人 生愛会		
事業所名	グループホーム ゲンジョウ		
所在地	大分県別府市大字鉄輪字山ノ上594-9		
自己評価作成日	平成22年11月6日	評価結果市町村受理日	平成23年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☆一人の職員が仕事で悩んでいる時、その悩みを職員全体で悩みを分かち合い解決していています。

☆職員の個性が活かされる職場で、職員それぞれが利用者のことを思いやっている職場です。

☆明るく笑いの耐えない雰囲気や大事にしている職場です。

☆職場内研修を月に1度行っており、ケアに対する評価を行い、その力量に応じ助言や相談を行っている。また、職場外での研修参加者は必ず職場会議で発表・報告し今後のケアに役立て実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 職員同士のチームワークがよく、利用者と職員が一体となって家庭的な雰囲気や生活している。
- 2) 自己評価を全職員で行い、評価を改善に活かす取り組みをしている。
- 3) 情報活用シートを作成し、1人ひとりの情報を全職員が共有し、サービスに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter-) です。)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しく理念を作り、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げて職員の地域密着型サービスに対する理解は以前に比べ理解出来てきていると思うが、具体的な理解にまで至っていない。	「利用者としてではなく、地域住民として密着していく」という理念を新しく掲げて、職員全員で、地域密着型サービスに対する理解を深め、実践につなげる取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初めて地区の盆踊りに参加したが、その後は地区の方とは交流がほとんどなく、日常的に交流はできていない。	今年は、地区の盆踊りに参加をした。地区の老人会へ出席し、認知症の話をするなど、地域との付き合いを少しずつ進めてはいるが、事業所からの地域に対する積極的な関わりが少ない。	事業所が孤立することなく、ともに暮らす地域住民として、地域活動や人々との関わりに積極的な働きかけを行うことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に対しては、認知症に関して理解してもらえるよう、広報誌の中に認知症に関する事柄(気持ち・行動など)シリーズとして掲載し理解への啓発を行っている。又、理解者を増やすため実習の受け入れも積極的に行っている。まだ1回ですが地区の公民館で認知症の代表的な症状等を説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問・意見・要望等を言ってもらえるよう働きかけているが、あまり意見がでないのが現状である。	2ヶ月に1回実施され、事業所の状況報告は行われているが、参加者からの意見が少なく、サービス向上に活かすには至っていない。	参加者からの助言や、事業所と地域との交流促進のための協力を得られるような運営推進会議の持ち方に工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録と一緒に事業所の活動や行事の報告も作成し伝えているが、口頭での説明などはしておらず、あまり協力関係が築けていない。	運営推進会議の議事録や行事の報告などは行っているが、積極的に協働関係を築くには至っていない。	様々な機会を通して、担当者との関わりを持ち、情報の共有や、現場や利用者の課題解決に向けての協力関係を構築していくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議で事例を使い、拘束をすることでストレスや混乱を招くことを十分に理解してもらっている。又、その時々利用者の行動や思い気持ちを読み取り声をかけたり、見守りを行い自由な暮らしを支えている。	年に2回、定期的に身体拘束についての研修会を行うとともに、職員会議において、事例を用いて理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議で事例をもとに勉強会を行っている。利用者に関わる上での気構えや自己の感情のコントロールについても確認を行い防止に努めている。		

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が事例を使い、勉強会を開いたが、その時だけの説明では理解が薄く現状では、支援できる体制が万全とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、専門用語は出来るだけ使わず、分かりやすいように取組み、退居に関しての不安感も軽減を図りながら十分に説明し理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2度、家族会を開き直接意見を聞いている。直接言えない方もいるので、年に1度ご家族に無記名でアンケートを送付し気軽に意見や要望言えるように努めている。また、その時にでた意見や要望は職員全体で把握し運営に反映させている。	年に2回、家族会を開催して意見を聞いている。年に1回アンケート調査を行い、その結果は家族に送付している。出された意見や要望は職員会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきやアイデアを聞くようにしているが不満など言い難い部分でもある為、把握しきれていない可能性もある。	職員会議やミーティングで、職員の意見や要望を聞くとともに、処遇面や個人的なことは、個別に聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、個々での相談にのっている。また、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を月に1度行い、職員のケアに対する力量・考えを確認し評価している。また、その力量に応じ助言や相談を行っている。職場外での研修に参加した場合は必ず職場会議などで発表・報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市GH連絡協議会の活動のひとつとして他の事業所と合同で定期的に勉強会を行っている。そこで事例検討会などを行いサービスの質の向上に努めている。		

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努めている。また、本人の思いに向き合い、本人に受け入れられるような関係作りができるよう常に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることやこれまでの経緯については、理解しながら聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや状況などを確認し、相談を重ねる中で、信頼関係を築けるよう努めているが、他のサービスの繋げた事例はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩であることを尊重し本人の抱えてる不安や想いが理解		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態など面会時や電話連絡にてこまめに伝えている。本人・家族の思いを尊重しながら共に支えていく関係が築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所を知りドライブの時などにでかけている。馴染みの人との関係では面会に来てもらった時に継続して来ていただけるように働きかけを行っている。	「今までの暮らし、現在の暮らし、情報活用シート」を作成し、全職員で情報を共有し、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を全職員で共有し、仲が良い方同士でレク・グループワークに参加して頂いているが日々の気分・状態で変化する事もあるので、その事を理解し支援している。		

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもお見舞に行くなどし継続的な付き合いができるようにしている。また、家族からの相談にもものっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情、行動を汲み取り把握に努めている。また、意思疎通の困難な方に対しては家族などに情報を得るようにしている。	日々の関わりの中で得た情報は「情報活用シート」に記載することで、職員の情報共有と、利用者1人ひとりの把握が、よりできるようになった。また困難な人は、表情や行動からくみ取ったり、家族に情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報活用シートを作成するにあたり家族にはケアに役立てることを説明し出来るだけ生活歴を詳しく聞くようにしている。また、把握した情報は職場会議で共有し、ケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し言動・行動から心身の状態を感じ取り、その方の全体像が理解できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見が現状聞けてなく、見直した結果だけの報告になっている。カンファレンスは定期的に行い職員の意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスは、月に1回実施し、担当者とケアマネジャーの事前評価チェック表をもとに、全職員の意見やアイデアを反映した計画とモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙を用意し、毎日、ケアプランに沿った日々の様子を記録している。また、日中・夜間の日誌を用意し毎日記録し職員全員が日々の様子を把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況や要望に応じて、通院の代行や家族と本人の夕食の時に、付き添い負担の軽減を図っている。		

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの社会福祉士に参加してもらっており、地域の情報などを交換している。月に1度、訪問理容サービスを利用し、週に1回はパン屋が来て購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の希望に沿って決めているが、ほとんどが当事業所の協力医となっている。家族の状況により受診も職員が代行することが多い。結果等は随時報告している。	事業所の協力医は、月1回の訪問診療を行っている。受診は、基本的には家族の同伴となっているが、事業所が代行することが多い。受診前後の連絡は随時行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調・表情。言動などから、変化や気づいたことがあれば看護師に報告・相談し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の普段の様子、支援方法等の情報を医療機関に提供している。また、1週間に2回は職員がお見舞いに行き、回復状況を確認し、随時家族に連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて事業所では対応できるケアについて説明を行っている。	重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応できるケアについての説明を行い、安心して最後を迎えられるように支援体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時を想定した訓練を2ヶ月に1度行っており、職員が対応できるようにしている。また、緊急対応時のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2ヶ月に1度行っているが、事業所として地域との協力体制については、十分な協力のお願いや呼びかけは出来ていない。	法人が行う年2回の消防訓練のほか、事業所独自で利用者と一緒、2ヶ月に1回、避難訓練を実施している。災害に備えた備品も準備されている。	

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のその時々に応じた気持ちを理解しさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。また、本人の尊厳に配慮した支援を行っている。	倫理とプライバシーの研修を定期的実施するとともに、管理者は個人的にその都度注意をしたり、事例を全員に伝えて話し合いを行うなど、利用者の尊厳に配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の考えを押し付けたりせず、複数の選択肢を提案して、利用者が自ら選ぶ場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりの体調・気持ちに配慮し1人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。行事はこちらの都合で決めていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、化粧をし出かけてもらうよう働きかけている。また、利用者の好みを生活暦などから把握し好みに合わせたおしゃれができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備やあと片付けは一緒に行うようにしているが、職員主導で行うことが多い。食事に時間では音楽をかけたり、声をこまめにかけたりして、明るい雰囲気でもらえるよう働きかけている。	主菜は、併設の施設より運んでくるが、ご飯と味噌汁などは、利用者とともに作っている。木曜日は、手作りのおやつ作り、誕生日や行事の際には希望に添った手作りの料理を作るなど、利用者が料理や片付けに関われる時間を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量は記録をつけ職員全員で把握できるようにしている。食事の摂取量が少ない場合は本人の好きなもの（果物・お菓子など）を補食としてだすようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る所、声かけ・見守りをし、出来ない方に対しては、毎食後のケアを行い、嚥下障害による、肺炎の防止に努めている。		

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを調べ、個々にあった間隔で誘導を行っている。又、トイレでの排泄を大切にしながらパット・紙パンツは本人に合わせて検討している。	利用者個々に応じて、排尿のサインを察知し、誘導したり声かけをして、トイレでの排泄を大切にしている。また、尿取りパットや紙パンツなど本人にあわせて使用し自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は毎日食事以外で、1000cc以上を目標に摂取してもらうよう働きかけを行っている。水分補給の重要性と身体を動かすことの大切さを意識するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるようにしている。入浴時間のしほりはあるが、その時間の間で希望があれば入浴してもらっている。拒否がある場合は時間をずらしたり、他の職員が変わって対応している。	利用者全員が毎日入浴できるよう支援をしている。拒否をされた場合は言葉かけや対応の工夫をし、一人ひとりにあわせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、日中の活動を促し生活のリズムを整えるように努めている。その日の体調・希望を考慮し休息がとれるように支援している。夜間、寝つきの悪い方には、夜食を食べてもらったり、飲み物を飲んでもらい、その後、寝つきやすいようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用の説明をファイルに保管し、すぐに閲覧・把握できるようにしている。又、薬の効き具合など随時、医師の報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味等を把握し出来そうな事をまず職員と一緒にしながら、役割や日課になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物は行きたいと希望された方は希望に添えるように、出来るだけ行けるようにしている。	利用者の希望に合わせて、馴染みの喫茶店や買物、ドライブに出かけている。自ら希望を訴えられない利用者も、月に3～4回はドライブに出かけている。また、周囲の散歩や、併設のケアハウス、畑などには積極的に出かけるようにしている。	

事業者名：グループホーム ゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる利用者にはお金を少額持って頂いているがほとんどの方は職員が所持・支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける利用者は書いてもらい、書けない利用者は代筆して年賀状は毎年出しているが、日常的に手紙のやりとりはできていない。電話も希望があれば掛けているが、日常的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に、季節の花を植えている。ホールには季節にあった飾り付けをし季節感をだし見当分の強化を図っている。又、行事などで撮った写真を飾るようにし、立ち止まってみれるように工夫している。	季節感のある手作りの壁飾りや、落ち葉のアート、また行事の写真などが張られており、キッチンも利用者が自由に出入りしており、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはベンチを置き、ホール内には食事の席以外でソファをいくつか置き落ち着いてくつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物などを本人・家族の方と相談し部屋に置くようにしている。持ち込みの少ない方には、壁に写真を貼り温かい雰囲気ができるようにしている。	仏壇、家具、衣類など、馴染みの品々が持ち込まれている。また、持ち込みの少ない人も、居心地の良さに配慮した設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況に応じて一人ひとり、できること・わかることを見極め家具の配置等の変更を行っている。		